

(別添4)

【沖縄県】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末とクラウドツールの利用により、データ利活用による個別最適な学びと協働的な学びを充実するとともに教師の負担を軽減する。各学校長のリーダーシップの下で教育DXを推進し、学習履歴（スタディ・ログ）、健康診断情報等のデータ利活用により、特別支援教育に対しても同様に支援を行い、全ての子供たちが適切な教育を受けられる環境を整備する。一斉授業か個別学習か、デジタルかアナログかといった「二項対立」に陥らないことに留意しつつ、教育DXを推進する。

2. GIGA第1期の総括

GIGA第1期以前には、県立学校教職員と児童生徒にアカウントを配付済みであったため、コロナ禍においても学校からの連絡や情報共有を問題なく行うことができた。しかし令和4年度の1人1台端末利用開始直後は、多くの台数に耐えうるネットワーク環境の整備に数ヶ月かかり、長期間に渡って学校における端末利活用に影響した。まだ一部に課題はあるが、令和5年度後半からネットワーク環境が改善したことで、クラウドツールの円滑な利用が可能となり、現在は校内研修や教育センターでの研修を通して1人1台端末の利活用を進めている。また、県立中学校ではGoogle Workspace for Educationを校務や授業に効果的に取り入れることで、今後はデータ利活用を進める計画である。

3. 1人1台端末の利活用方策

端末利活用の前提として、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末の環境を引き続き維持する。

校内研修の積極的な実施と活用により、ICT研修を受講する教員の数を増やし、1人1台端末を文房具として毎日使う環境の構築を目指す。

また、授業において児童生徒が自ら調べ、考えをまとめて発表する場面を設定することや、教職員と児童生徒、児童生徒同士がチャット等でやり取りできる環境、児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組める環境を整備する。

1人1台端末を活用した学びの保障については、端末を活用した教育相談や不登校児への支援、外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に取り組む。

併せて、特別支援教育においては全国に先駆けて平成23年度からタブレット端末を導入し活用してきた実績を生かし、障害のある児童生徒や合理的配慮を要する児童生徒等への支援に取り組む。